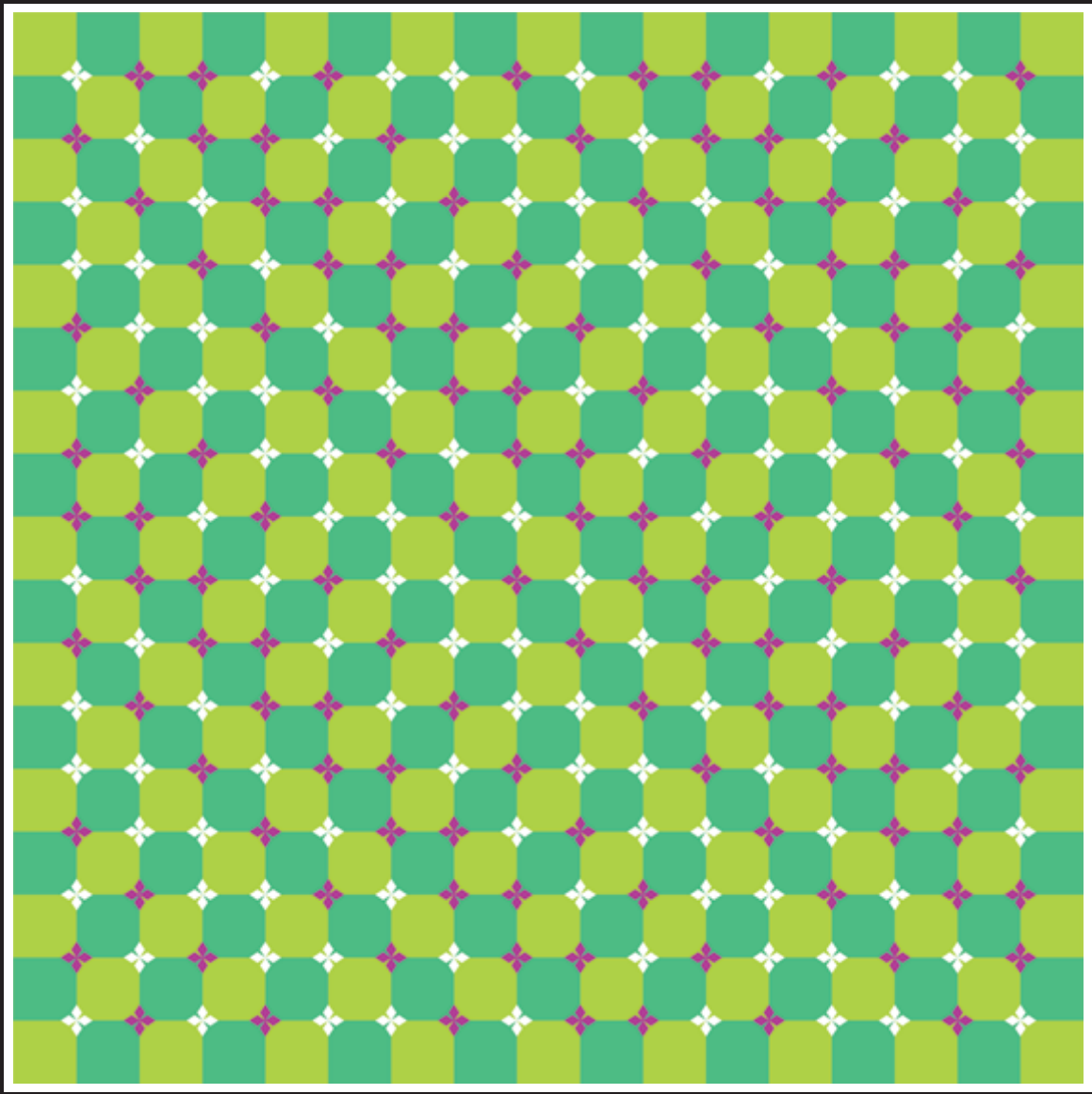
錯覚展

ー心の働きにせまる不思議な世界ー

2007
7/7 SAT ▶ 25 WED
〈休館日：7/9(月)・17(火)・23(月)〉
am9:00~pm5:00
海津市生涯学習センター 学習室



北岡明佳「サクラソウの畑」背景の市松模様はすべて正方形ですが、波打って見えます。

記念講演

日時：7/21 SAT 13:30~15:00

場所：海津市生涯学習センター
ビデオシアター

講師：北岡明佳 氏
（立命館大学文学部教授）

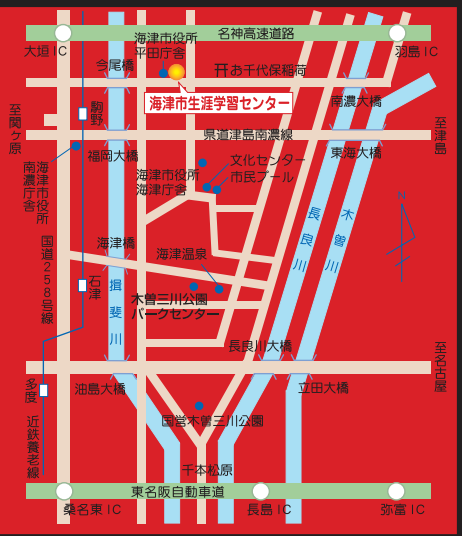
演題：「錯覚の心理学」
いろいろな錯覚について例を示すとともに、
その心理学的メカニズムを解説します。

【企画】
東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部
自然科学博物館
東京大学 21世紀COEプログラム
「心とことばー進化認知科学的展開」

【協力】
立命館大学 文学部人文学科心理学専攻

【主催】
海津市教育委員会

【問い合わせ】
海津市教育委員会
生涯学習課 0584-55-2608



錯覚展

ー心の働きにせまる不思議な世界ー

開催にあたって

止まっているはずの絵が動いて見えたり、同じ長さの線なのに違って見えたり、直線が曲がって見えたり、同じ色が違って見えたり、見えていたものが突然見えなくなったりするなど、細工した図形を見ると、脳がだまされてそういった見えが生じてしまいます。

脳は、目に映った物体をそのまま認識しているのではなく、視覚情報は、まず目の網膜から後頭葉にある第１次視覚野に伝わります。そこで輪郭・色などの要素に分別され、より高い次元の視覚領域処理が行われます。その際、目などの感覚器に異常がないのに、実際の物理的特徴と違ったものだと認識されることがあり、それを錯覚と言います。

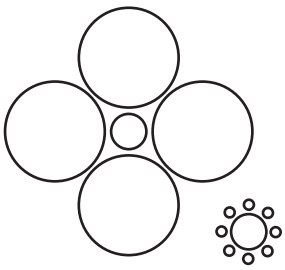
近年においては、錯覚のメカニズム解明に向けて、知覚心理学や認知神経科学と呼ばれる分野の研究が盛んに進められています。

このたび、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部自然科学博物館、及び錯視デザインで有名な立命館大学文学部人文学科心理学専攻の北岡明佳教授のご協力を得て、東京大学で行われた錯覚展の巡回展を開催する運びとなりました。

本展では、コンピュータグラフィックスで作られたアート性豊かな運動錯視や錯聴の体験をしたり、北岡教授の錯視図形、古今の錯視図形など多数を紹介します。ここで体感する様々な錯覚現象を通して、脳と心の働きについて理解を深めていただければ幸いです。

最後に、錯覚展開催を快くご許可いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

海津市教育委員会

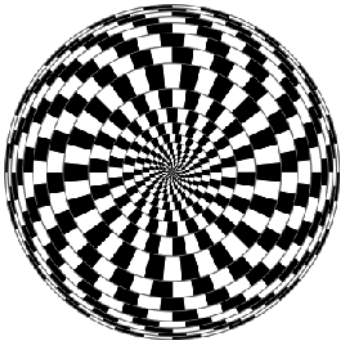


エビングハウス錯視

中くらいの大きさの円が複数の大きい円に囲まれるとより小さく見え、複数の小さい円に囲まれるとより大きく見える。

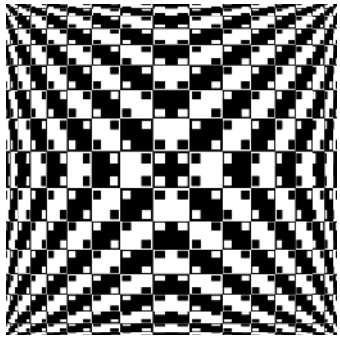
明るさの対比

左右の内側の正方形は同じ明るさであるが、左の方が明るく見える。



北岡明佳「渦巻きアンパン」

灰色の同心円が渦巻きに見える。



北岡明佳「クッション」

すべて正方形か長方形でできているのに、形が曲がって見える。

記念講演

日時：7/21 SAT 13:30~15:00

場所：海津市生涯学習センター　ビデオシアター

講師：北岡明佳 氏（立命館大学文学部教授）

演題：「錯覚の心理学」

北岡明佳 *（きたおか あきよし）* ***氏 プロフィール***

1961年高知県生まれ。1991年筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了、教育学博士。大学院在籍中は、動物心理学を専攻、ラットとマウスの情動性と穴掘り行動を研究した。1991年から2001年まで、財団法人東京都神経科学総合研究所（現在の財団法人東京都医学研究機構・東京都神経科学総合研究所）に主事研究員として勤務。ニホンザルの大脳視覚皮質の電気生理学的研究と、ヒトの知覚研究を行なった。2001年より立命館大学文学部助教授、2006年より同教授、現在に至る。現在の専門は知覚心理学。特に、錯視の実験心理学的研究と、錯視デザインの創作を得意としている。2002年に開設したウェブページ「北岡明佳の錯視のページ」には、日本語版・英語版ともに多くのアクセス数がある。2006年第9回 ロレアル 色の科学と芸術賞の金賞を受賞。著書に「トリック・アイズ」シリーズ（2002～2007年カンゼン）、「現代を読み解く心理学」（2005年丸善）、「だまされる視覚 錯視の楽しみ方」（2007年化学同人）がある。

【問い合わせ】 海津市教育委員会　生涯学習課　0584-55-2608